

## 2. 一黒崎播磨(株)の労働衛生管理について一

安部 太喜

黒崎播磨株式会社 安全環境防災部

## 1. はじめに

当社は、珪石煉瓦製造を目的とした1918年の設立以来、主に製鉄用耐火物の製造、販売、施工を行う総合耐火物メーカーとして歩み、来年で創業100周年を迎える。耐火物は、煉瓦形状の様な定形と、セメントの様な使い方のできる不定形があるが、いずれも、無機物の粉体を主原料とするいわゆる窯業製品である。当社は、一般の焼き物やセメントと同じく、塵肺対策の一環として、昔から粉塵の発生と戦ってきており、工場内の粉塵対策には特に力を入れている。本報告では、当社の労働衛生に関する取り組みや対策状況を紹介する。

## 2. 労働衛生活動を実施する体制について

当社の労働衛生に関する管理体制は、産業医1名、管理者3名、看護師1名、スタッフ1名の計6名で運営しており、活動の企画から実際の個人対応まで行っている。企画業務は管理者2名、産業医1名が主となり、個人の対応は本社工場を中心に産業医、看護師、スタッフの3名が行っている。

企画業務ではストレスチェック、作業環境改善(特に粉塵)、化学物質のリスクアセスメント、腰痛対策等に力をかけており、活動の実施母体は各工場として、活動の提案と事後のフォローや評価などを行っている。労働衛生の分野はまだまだ理解が少なく、重要視されていないことが多いため、理解を深め、その意義や効果をしっかりと教え、基盤を作っていくことを重視している。

個人への対応は、実際の怪我(災害)や疾病の対応、健康相談、面談などの業務を行っている。災害の対応や復職などに関わり、とても重要な役割を担っている。

## 3. 労働衛生対策の特徴

昨年当社が重点的に取り組んできたことは、暑熱対策と腰痛予防、化学物質のリスクアセスメントの

3つがある。熱中症などは特に事後対応に追われることが多く、本質的な改善は後回しになりがちとなる。例えば、熱中症の対策として、作業時間に応じた休憩時間の設定を行っているが、建屋自体の温度を下げるような本質的な設備対策が取れていない。このような本質的な改善をすすめるために先を見据えた投資を行っていくことが大きな課題である。

一方、うまく活動が定着した対策としては腰痛対策が上げられる。重量制限を決め、省力化も進み、現場からの改善提案も良く出ている。これは、重量制限の教育を行い、多くの作業者がとるべき対策とその効果を理解することで現場での施策の実行につなげる事が出来た。全員の理解がベースにあり、その上にルールや標準が整備されていて、改善が進んだ。徹底した教育が実を結んだ結果とも言える。

## 4. まとめ

労働衛生対策を進めるに当たっては、作業環境、作業方法と労働者のかかわりを明らかにした上で、適切な処置を講じるとともに快適な職場環境の形成を進めることが必要となる。これらを正しい認識のもと、それぞれの活動につなげていくためには更なる労働衛生教育の充実を図り、深い理解のもとで推進していく必要がある。先にも述べたが、活動基盤は各工場であり、その単位での強力な推進者の養成も急務と捉えている。活動を広く展開して行くことと未然防止の一手を打てる実力をつけることを目標とし、教育や情報発信を行い、労働衛生活動を通して対策を形にしていく。

## 演者略歴

所属 黒崎播磨株式会社 安全環境防災部 安全衛生防災グループ  
 役職 アシスタントマネージャー  
 略歴 2006年3月 産業医科大学 産業保健学部 衛生学科 卒業  
 2006年4月～黒崎播磨株式会社 入社 全社の安全衛生防災に関わる企画・推進の業務及び北九州市八幡地区の工場の安全衛生管理業務に従事(途中製鉄所内の耐火物の工事と修理に携わる)  
 2012年3月 労働衛生コンサルタント 合格